八久和川下部釣り遡行

2008 年　8 月 11～15 日

Ｌ後藤　天野（記）　他 1 名

今回の山行は当初後藤、西村、天野の予定でいたが西村氏が急遽行けなくなり、替わって後藤氏の奥さんが加わり予定のコースで行くことになった。

11 日、早朝こちらを発ったが山形は遠い。林道に着いたのは 15 時であった。1 日目は行動を諦めテン場探しにダムサイトに車を走らせた。この道が車 1 台やっとの道で、ちょっとした冒険気分の 20 分間のドライブであった。ダムの水は少ないようである。ダムサイトに快適な広場がありテントを張って入山祝い、アブと藪蚊の歓迎を受けながら日は暮れる。夜は満天の星だった。

2 日目、6 時には林道入り口を出発、カクネ小屋跡を目指す。背丈ほどの笹の道を行くと突然先頭の後藤が消える。深さ 1 メートル程の溝に片足を突っ込んでしまった。溝にかかる板が腐ってほとんど無くなっていたところが笹で見えずに落ちてしまった。かなり痛そうだが少し様子を見て大丈夫だということで出発。(実は最後まで結構痛かったらしい）道は穏やかなぶなの林やザレた斜面のトラバースを交え二松沢を目指す。朝日・飯豊連峰の沢によると二松沢の少し先に木に切りつけた「二松下る」が入渓とあるがそれがなかなか出てこない。途中誰かの別荘らしきブルーシートが張ってある場所があり、そこの近くの小沢を下り入渓することにする。やはりアブの歓迎を受ける。二松沢を下れば反対側の右岸にまた道があるそうだが我々はそのまま沢を遡行した。右岸の道を行けば時間短縮になったのだろうが、泳ぎでロープを出したりしたので、カクネ小屋跡まで行けず右岸に適当なテン場を見つけて泊まる事にした。ここで後藤竿を出し１匹釣り上げたが小さいのでリリースした。車での移動で丸１日、林道からここまで丸１日かかってしまったので予定を変更して、明日（３日目）はここをベースに釣りをして４日目は川を下り朝日村に泊まることにした。

３日目も朝から夏空、夕べは焚き火の暖かさと昼のアブ攻撃から解放された心地よさからつい呑みすぎの二日酔いだ。のんびり出発して釣り上がることにする。まもなく大きな淵で魚影発見。ゆったりと数匹泳いでおりそのうちの一匹は尺はある。さっそく後藤、糸を垂らすがスッとよけられてしまった。擦れているのか餌が合わないのか。天野は少しずつ上へ移動しながら糸を垂らすが１回あたりがあっただけであった。

釣り上がるとやがて渓相は一変し広い河原に出た。カクネ沢が左から入り込んでいた。やがて後藤夫人が後からきて上流へと偵察に行った。昨日は目的地のすぐ手前まで来ていたようだ。釣果は後藤が２匹リリース、天野はボウズ。この夜も焚き火を囲みながら後藤夫人の子どものころの川遊びの話などを聞く。伊豆の狩野川で河童のように遊んでいたとのこと。どうりで水にバンバン入るわけだ。かなりのおてんばだった様です。この夜は星が少しだけ見えて夜中に雨がポツポツ降った。

４日目、撤収に入るころから雨が降り出し、すぐに大粒に。急いで出発すると雷が鳴りはじめ雨脚はどんどん強くなる。本流がまだそれほど増水していない間に横沢、赤沢（かなり濁っていた）を渡り左岸に上がれそうな斜面発見。見た目はたいしたことないのだが雨で滑り、苦労して上がると踏み跡があった。これで流される心配はない、ほっとした。途中一ヵ所踏み跡がはっきりしなくなりロープを出した。やがて二松沢に出会う。（付近に「二松下る」の切り付けは見つからなかった。）その先すぐにブルーシート別荘を通過した。行きは二松沢の少し手前から入渓したことになる。時おり覗く八久和の濁流を眺めながら車へと戻った。

朝日村の温泉経由、鶴岡のビジネスホテル泊。その夜は日本海の地魚料理で岩魚の穴を埋めることにした。

感想

下部の釣遡行とはいえやはり５級の沢、流れはたいしたことなく見えても入ってみると太く、強いという印象でした。それと大雨時の増水、日数のかかる沢では天気も味方してくれないと完全遡行は難しいのだろうな、という印象でした。またいつか、アブのいない時期に行ってみたい沢でした。

コースタイム

１２日　６：００林道～１６；３０カクネ手前テン場

１３日　ベース付近で釣り

１４日　７：００テン場～１５：３０林道

地図

２万５千分の１　大鳥